テルモ株式会社
2014 年 11 月 5 日

2015 年 3 月期 上期決算説明会 質疑応答

2014 年 11 月 5 日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：上期の営業利益は費用をコントロールしたことにより業績予想を上回ったが、下期は計画通り費用を使うのか？

A1：上期は、売上が業績予想を若干下回る中、収益目標を達成するため、収益性改善の取り組みに加え、販管費をコントロールした。下期の売上は、上期に対し 200 億円以上増やす計画となっており、引き続き費用を適正にコントロールしながらも、売上拡大に必要な費用は投下していく。

Q2：米国のカテーテル販売体制の強化で、今期の一般管理費は前期比 115 億円増える見通しとなっているが、上期の一般管理費は 26 億円しか増えていない。米国での採用は順調に進んでいるのか？下期で採用が進まない場合、来期にずれ込むのか？

A2：現時点ではやや採用が遅れていることもあり、人件費の発生にギャップが出ている。下期は、マーケットや売上の状況に応じて引き続き採用を進めていく予定だが、一部ずれ込む可能性もある。

Q3：ホスピタルカンパニーの収益性の改善の進捗と、来期の事業利益率の見通しは？ 欧州のホスピタル事業ポートフォリオ改革により、来期はどの程度利益が改善するのか？

A3：ホスピタルカンパニー全体の収益性は改善傾向にあるが、この傾向を定着させるためには、更なる努力が必要である。まずは今期の目標を達成するとともに、来期も改善を継続できるよう取り組んでいく。欧州では、病院向け基盤医療器ビジネスはほぼ赤字であるが、製薬企業と一緒にユニークなデバイスを開発し、製薬向け B2B ビジネスを増やすことで、中長期的に欧州の事業利益率 20%以上を目指していきたい。

Q4：今期の事業・設備の棚卸しはこれで最後か？今後予定している棚卸しはあるか？

A4：今後も継続的な見直しは必要だが、規模の大きな棚卸しについて、今期は目処がついたと考えている。

Q5：骨格筋芽細胞シートの製品化の時期、ビジネスモデル、売上規模の見通しは？

A5：再生医療は産業化が一番大きな課題である。今回申請した骨格筋芽細胞シートは、大阪大学と共同で研究開発を進めてきた。患者さん自身の細胞を使って作るため、拒絶反応がないのが特徴である。現段階では売上や収益というよりは、一つの突破口と考えており、今後も研究開発を継続し、産業化可能な再生医療に結び付けていきたい。

以上

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。